

2021 年度に実施したプロジェクト評価結果のまとめ

2021 年度に実施した、プロジェクト中間評価全 6 件及びプロジェクト事後評価 9 件、全 15 件について、評点はそれぞれ以下の通り。

下線の案件については、今回の第 68 回研究評価委員会での審議を経て、確定する。

1. 中間評価結果のまとめ

	事業名	担当部	意義	運営	成果	実用化
1	航空機用先進システム実用化プロジェクト/ ⑧次世代電動推進システム研究開発	ロボッ ト・AI 部	2.8	2.3	2.7	2.3
2	再生可能エネルギーの大量導入に向けた次世代 電力ネットワーク安定化技術開発／研究開発項 目①-1 日本版コネクト&マネージを実現する 制御システムの開発	スマ・エ ネ部	3.0	2.4	2.0	2.4
3	再生可能エネルギー熱利用にかかるコスト低減 技術開発	新エネ部	2.6	2.6	2.4	1.6
4	機能性化学品の連続精密生産プロセス技術の開 発	材・ナノ 部	3.0	2.6	3.0	2.6
5	積層造形部品開発の効率化のための基盤技術開 発事業	IoT 部	2.8	2.6	2.6	1.8
6	風力発電等技術研究開発／②風力発電高度実用 化研究開発／iv) 風車運用・維持管理技術高度 化研究開発	新エネ部	3.0	2.4	2.4	2.0

注：下線の 1 件については、今回の第 68 回研究評価委員会での審議を経て、確定する。

2. 事後評価結果のまとめ

	事業名	担当部	意義	運営	成果	実用化
1	カーボンリサイクル・次世代火力発電等技術開発／②高効率ガスタービン技術実証事業1) 1700℃級ガスタービン	環境部	2.7	2.7	3.0	2.4
2	革新型蓄電池実用化促進基盤技術開発	スマ・エネ部	3.0	3.0	2.6	2.6
3	※カーボンリサイクル・次世代火力発電等技術開発／④次世代火力発電基盤技術開発 7) CO ₂ 有効利用技術開発	環境部	3.0	2.3	2.7	2.0
4	カーボンリサイクル・次世代火力発電等技術開発／④次世代火力発電基盤技術開発 9) 機動性に優れる広負荷帯高効率ガスタービン複合発電の要素研究	環境部	3.0	2.7	3.0	2.7
5	高温超電導実用化促進技術開発	省エネ部	2.9	2.3	2.1	2.1
6	超臨界地熱発電技術研究開発	新エネ部	3.0	2.6	2.2	2.6
7	※ <u>植物等の生物を用いた高機能品生産技術の開発</u>	材・ナノ部	3.0	2.7	2.9	2.3
8	※ <u>高輝度・高効率次世代レーザー技術開発</u>	IoT部	2.9	2.9	3.0	2.6
9	<u>地熱発電技術研究開発</u>	新エネ部	3.0	2.5	2.7	2.3

注：下線の3件については、今回の第68回研究評価委員会での審議を経て、確定する。

※：前倒し事後評価

第4期中長期計画における評価指標について

(参考)

○第4期 事後評価結果

70%以上 (マネジメント、成果 \geq 2点 (3点満点))

50%以上 (実用化 \geq 2点 (3点満点))

第4期中長期計画 抜粋

I. 研究開発成果の最大化その他の業務の質の向上に関する事項

第4期中長期目標期間においては、研究開発成果の最大化その他の業務の質の向上のため、以下のとおり、1. から4. の業務項目毎に取組を行うものとする。

また、機構の業務活動単位を①エネルギーシステム分野、②省エネルギー・環境分野、③産業技術分野、④新産業創出・シーズ発掘等分野とし、これらの分類ごとに組織上の責任者を配置して業務を実施する。(中略)

1. 技術開発マネジメント等による研究成果の社会実装の推進

(1) 世界最先端の研究開発プロジェクトの実施と成果の最大化

○数値目標 1. - 1

【目標】「基幹目標」

(中略) 事業終了後、5年が経過していないナショナルプロジェクト(非連続ナショナルプロジェクトを除く。)については、事業終了後に実施する外部評価委員会による事後評価における「成果の実用化・事業化に向けた取組及び見通し」の評価項目の4段階評点が最上位又は上位の区分となる比率を第4期中長期目標期間全体で該当する評価単位のそれぞれにおいて、いずれも50%以上(平成23年度以前に終了したナショナルプロジェクト243件の実績は41%)とすることを目標として、成果の実用化に向けたマネジメントに、より一層取り組むものとし、当該比率を基に実用化達成率の将来予測を行うものとする。

(2) 技術開発マネジメントの機能強化

○数値目標 1. - 2

【目標】

(中略) 第4期は、マネジメント結果を直接的に測定できる「研究開発マネジメント」及び「研究開発成果」の評価項目に特化することとし、同評価項目の4段階評点が最上位又は上位の区分の評価を得る比率について、第4期中長期目標期間全体で該当する評価単位のそれぞれにおいて、いずれも70%以上(平成28年度までに事後評価を完了したナショナルプロジェクト358件の実績値は68%)とすることを目標とし、その達成状況を評価する。